

Laudato Si Circle 2

2022年6月26日(日)

1. 始めの祈り: 太陽の歌 (アシジの聖フランシスコ)

たたえられよ、我が主、
あなたから造られたもの、
わけても 貴き兄弟 太陽によって。
彼は昼を造り、
主は かれにより 我らを照らす。
彼は大いなる光によって
美しく照り輝き、
いと高き あなたの
み姿を映す。
たたえられよ 我が主、
姉妹なる月と あまたの星によって。
あなたは それを 大空にちりばめ
美しく 貴く きらめかす。
たたえられよ 我が主、
兄弟なる風 大気や雲
さま変わる 天の事象によって、
あなたは それにより
造られた すべてに支えられる。
たたえられよ 我が主、
姉妹なる水によって。
それは みなを生かし、
おごることなく 貴く
また清らかに澄む。
たたえられよ 我が主、
あなたは 兄弟なる火によって、
夜の闇を照らす。
彼は美しく 心地よく
たくましく 力あふれる。

2. **世界的規模の問題についての教会の立場と歴史:** 教会が信徒たちだけではなく、善意を持っているすべての人々にこのようにメッセージを送って回心と変化を促すことはこの回勅がはじめてではありません。教会は地球的次元の問題に対して全世界にメッセージを発表し、参加と行動を励まして来ました。
- a. 聖ヨハネ二十三世教皇 — 世界が核戦争勃発の危機にあった五十年以上前に戦争を否定するだけではなく、平和を築くために回勅「*Pacem in Terris* — 知上の平和」を 1963 年 4 月 11 日に発表
 - b. 福者パウロ六世教皇 — 環境問題に懸念を示して、自然を無分別に利用したことで、自然破壊の危険にさらされ、今度は自らの身にその被害が跳ね返ってきていますと語られました。(使徒的書簡八十周年 1971, 年 5 月 14 日) 教皇様は産業文明の爆発的な効力のもとの生態系異変の可能性についても述べました。「並外れた科学的進歩、驚異的な技術力、驚くべき経済成長も、もしそれらが真に社会的で道徳的に導かれた進歩でないならば、それらは最終的には人類に抗うものとなるであろう」と、人間行動の抜本的な改革の研究の必要性を強調しました。(国連食糧農業機関創立 25 周年にあたってのあいさつ, 1970. 11. 16)
 - c. 聖ヨハネ・パウロ二十三世 — 最初の回勅「*Redemptor Hominis* 人間のあがない主」で人々は、「直接の使用と消費に役立つものであるという意味でしか自然環境を見ない」のであるとしばしば警告しました。(1979 年 3 月 4 日) その後、教皇様は地球規模でのエコロジカルな回心を呼びかけました。「人間環境の破壊は極めて深刻な問題です。私たちの世界を守り改善しようと思えば、「ライフスタイルや生産と消費のモデル、そして現在の社会を支配している既成の権力構造」における大きな変化をもたらすものです。(回勅 *Centesimus Annus* 百周年, 1991 年 5 月 1 日)
 - d. ベネディクト十六世 — 2008 年 8 月 6 日にブレッサノーネ教区の聖職者たちへの演説で次のように述べました。「私たち自身が決定権をもつところでは、すべてはただ自分たちの所有物になります。そして、自分たちのためだけにそれを利用するところでは、自分より優れたものを認めなくなります。また、自分たち以外は何にも見なくなるころでは、被造界の誤用が始まり」被造界は傷つくのだと理解するよう、熱心に呼びかけました。
 - e. ヴァルソロメオス総主教 — 1997 年 11 月 8 日、アメリカのサンタバーバラ市の演説で「人間が、神の被造界の生物多様性を破壊すること、気候変動を引き起こ

したり、天然林を大地からはぎ取ったり、湿地を破壊したりすることによって、人間が地球の本来の姿をだめにしてしまうこと、人間が地球上の水や土地や空気や生命を汚染すること、これらはすべて罪なのです。」と説得力を持って述べました。

- f. アシジの聖フランシスコ — 聖人は、傷つきやすいものへの気遣いの最良の手本であり、喜びと真心をもって生きました。総合的なエコロジーの最高の模範として被造物と貧しい人々そして見捨てられた人々に特別に気を遣いました。彼の弟子であった聖ボナヴェントゥラはこう語ります。「すべてのものの根源的な源に想いを馳せる時、彼はあふれるような敬虔さに満たされ、どんな小さなものでも、あらゆる被造物を自分の兄弟姉妹と呼んだ。」もし私たちが、畏敬と驚嘆の念を持たずに自然や環境に向かうなら、そして、世界とのかかわりにおいて友愛や美の言葉を口にしなくなるなら、私たちの態度は、限度を設けることなく当面の必要を満たそうとする支配者、消費者、冷酷な搾取者の態度になるでしょう。これとは対照的に、もし存在するすべてのものと親密に結ばれていると感じるなら、節制と気遣いがおのずと湧き出て来るでしょう。さらに、聖書に忠実な聖フランシスコは、自然を神がそこでわたしたちに語りかけ、御自身の無限の美や善を垣間見させてくれる、壮麗な一冊の本とみなすよう誘います。「造られたものの偉大さと美しさから推し量り、それらを造った方を認め」(知恵 13・5)ます。実に、「世界が造られたときから、神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して知られていた」(ローマ 1・20)のです。
- g. フランシスコ教皇は環境悪化が世界の最も貧しい人々の生活にもたらす悲劇的影響を解決しようと奮闘しているすべての人々を称え、励まし、感謝します。そして地球の未来を私たちがどのように形づくろうとするかについてあらゆる人々が参加する新たな対話の必要性を呼びかけます。教皇様は「私たちの共に暮らす家を守ろうとしている数多くの団体と献身的な努力が続いてきましたが、残念ながら強力な抵抗によるだけでなく、より一般的に見られる関心の欠如によっても、その多くが挫かれました」と述べました。さらに妨害的な態度は、信仰者たちにまで及んでいると指摘します。ですから私たちは新しい普遍的な連帯を必要としています。南アフリカの司教団が述べたように、「神の創造の御業を人間が濫用して生じさせた損傷を修復するためには、あらゆる人の才能と関与が必要です。(1995年9月5日、南アフリカ司教協議会「環境危機に関する司牧声明」) 私た

ちは皆、神の道具として、被造界を大切にし、おのおの自身の文化や経験、自発性や才能に応じた協力ができるのです。

教会の社会教説に加えられるこの回勅を通して教皇様は私たちが直面している課題の重要性、希望の大きさ、緊急性を認識する助けとなることを願いながら、現在の生態学的危機が有する様々な側面の概観からこの回勅を始められます。この回勅で繰り返し現れるテーマは次の通りです。

(1)貧しい人々と地球の脆弱さとの間にある密接なかかわり (2)世界中のあらゆるものはつながっているという確信 (3)テクノロジーに由来する勢力の新たなパラダイムと権力形態の批判 (4)経済や進歩についての従来とは別の理解の方法を探ろうという呼びかけ (5)それぞれの被造物に固有な価値 (6)エコロジーの人間的に、率直で正直な討議の必要性 (7) 国際的な政策及び地域的な政策が有する重大な責任 (8) 使い捨て文化、そして新たなライフスタイルについて等です。

3. Contemplation の重要性についての教皇様の言葉

教皇様はこのように contemplation の重要性を重ねて述べました。教皇様は 2020 年 9 月 6 日に発表された Catechesis 「Healing the world」:7.Care of the common home and contemplative dimension で次のように話します。

私はここで、総合的なエコロジーの二つの重要な言葉を皆さんと分かち合いたいと思います。それは contemplation と compassion です。今日、私たちを取り囲む自然は、もはや尊ばれず、観想(to completed)されず、ただ搾取されています。私たちは貪欲になり、コストにかかわらずすぐさま利益と結果を求めます。

私たちの現実はますます速く回り、集中が妨げられることが多く、表面的です。その間にも森林は燃やされています。消費主義に毒されています。これは私たちの病気です！消費主義の病気です。私たちは最新の“app”を手に入れようと熱心ですが、もはや隣人の名前すら知らず、ましてや一本の木と他の木との区別もできません。さらに問題なのは、こんなライフスタイルによって基盤を失い、存在するものに感謝の気持ちを持たず、それを私たちに与えてくれた方に感謝の念を忘れていているのです。ですから私たちは

忘れないように、観想(contemplation)に戻らなければなりません。無数の無用なものに心を奪われないように、もう一度平静(silence)を取り戻さなければなりません。心の病にかからぬように、私たちは心を静め(be still)なければなりません。これは簡単なことではありません。例えば、私たちは隣の人を見つめ、与えられている創造物に目を向けるために携帯電話に縛られている私たちを解放しなければなりません。

Contemplation(観想)することは沈黙の時間、祈りの時間、霊魂との調和の時間、頭と心と手との健全なバランス、そして考え、感情、行動の間の健全なバランスを回復する時間を持つことです。Contemplation(観想)は急速で、表面的な、結論のない選択に対する解毒剤です。Contemplation(観想)する人は支えてくれる土台を感じることを学び、自分たちは独りではないこと、そしてこの世で意味のない存在ではないことを理解します。Contemplation(観想)する人は、神の優しいまなざしに気づき、自分たちが貴い存在であることを理解します。神の御目には一人一人が大切であり、一人一人は人間の貪欲によって侵された世界のある部分を神の御旨に合わせて善い方向に変化させることができます。実は、Contemplation(観想)することを知る人々は、両手をポケットにいれたまままでいるのではなく、具体的なことを実践します。Contemplation(観想)は人を行動に導きます。

「Contemplationの祈りがなければすべての中心に「私」を置く不均衡で、傲慢な人間中心主義に陥りやすいです。これは人間をすべての被造物を治める絶対君主として位置づけることで、人間として私たちの役割を過度に拡大させます。Catechesis
September 16, 2020」

4. Contemplation と Meditation との違い

Meditation と Contemplation との違いに対する伝統的なキリスト教の理解は以下の通りです。Meditation は私たちが行動を取ります。例えば、普通私たちが聖書や聖なる言葉を黙想することなどのようなものです。反面、Contemplation では神様が行動します。Meditation を通じて私たちは積極的に神様の言葉を理解し、現存の中に留まろうとしています。このような過程の中で神との合一や Contemplation の恵みを受けると似ていると言えます。Contemplation は、言葉をじっと聞くこと、そしてより受動的

な祈りだと言えます。庭園の比喩を聞いてみましょう。Meditation は gardening と例えられます。Gardener は積極的に耕作し、種を撒いて水を与えながら植物を育てます。しかし、gardner 自身は実質的に花を咲かせる時に何もしません(出来ません)。Gardener はただ、植物が成長できる条件を作ることで、実際に植物が成長して花を咲かせることは、Contemplation のように神様の恵みの結果です。もう少し説明してみると、Gardener は植物を熱心に世話し、植物が育って花が咲き、実を結ぶのを見て喜び、自分の苦勞に対するやりがいを感じます。自分の努力、自分の知恵、自分だけのノウハウ、自分だけの成果など…自分に焦点が合わせられます。Contemplation はまるで Gardener が熱心に植物の世話をして育てながら、自分に焦点を合わせずに植物一つ一つに関心を持つようになり、成長することの神秘を感じ、さらにこのすべてが神様のなさることを深く見て、よく認識し、神様の手と現存を感じ感謝することと似ています。

5. 終わりの祈り: 主の祈り

